

▼郷土の偉人を再発見

# 岡部蒼蒼風

「おかべそうふう」

Closeup  
クローズアップ

見る者を圧倒する筆力と  
奥深い理法に裏打ちされた技術  
芸術としての「書」を追及し続けた書家



「翔る(かける)」  
(1958年作) 1950年代は、蒼風が前衛書運動に身を投じていた時代。その作風を表すひとつに、「翔る(かける)」があります



(生没) 明治43年～平成13年  
邑楽町藤川生まれ。戦後、前衛書運動の旗手の一人として活躍。著書の「書論ノート」煥乎堂(1991)には、書における自身の理論が集約されています。

岡部蒼風顕彰事業の一環で、町教育委員会よりこの秋、「岡部蒼風作品集」が発刊されます。これは、岡部蒼風作品委員会が蒼風作品を町へ寄贈したことを記念して行われるもの。寄贈65点を含む町保有の蒼風作品の総目録となります。日本を代表する書家の一人で書道界の一時代を築いた偉人、岡部蒼風の作品を今、身近に感じることができるのです。

## 書一筋の人生を生きて

岡部蒼風は明治43年高島村藤川に父丈吉と、母てふの子として誕生。本名は幸十郎といいます。群馬師範学校で半田神来に師事した後、昭和9年半田神来の薦めにより、比田井天来に師事しました。蒼風26歳のとき、「書道芸術社」同人となり、上田桑鳩らとともに書の新しい芸術運動を進めました。37歳のとき、中野村立中野中

学校の初代校長に就任。その後、校長職を辞して昭和26年41歳のとき、上野松坂屋揮毫方に籍を置きます。

岡部蒼風は昭和27年、書の革新運動を進めるため池田水城らと「草人社」を結成。前衛書運動の旗手の一人として、新たな一歩を踏み出すことになりました。

昭和36年、蒼風51歳のとき草人社を離脱。既成書壇との決別を宣言し、新人の研修機関「グループ

蒼狼」を設立します。昭和41年、「グループ蒼狼」を「蒼狼社」として改組、会長となり、数々の書作展を開催します。

昭和59年、書・陶芸・絵画・彫刻・版画・七宝などの作家と「沙鷄会」を設立。会は各作家の交流の場となります。同時に新人作家の育成も目指していきました。

その後も精力的に書展や個展を開催しますが、平成13年に肺炎のため死去。享年91。

## 書家としての岡部蒼風

書家の加納石人氏は、「書」岡部蒼風の軌跡」で次のような言葉を

を残しています。「作家にとって、その作品ほど雄弁に自己を語る術が他にあるうか。彼の百の理論も、一つの作品に集約されていると言っても過言ではあるまい。作家は常に、すべてをその作品に賭ける。それ以外の何もかも彼を評価する対象とはなり得ないからである。(中略)今日の書家で、その作品とすぐれた理論に隔たりの感じられない人は稀である。その数少ない一人として、第一に岡部蒼風が挙げられる」。

『書』岡部蒼風の軌跡・岡部蒼風作品集刊行委員会(編)煥乎堂(2002)より。



「強大な筆力をもった線であるということは、実は筆者が強大な生命力をもっているということ、つまりいろいろな生活上の問題と真つ向からとりくみ、あらゆる困難を克服して、人間的真實を求めてきたたかに生き抜く生命力をバックにしていることである。書とは、このような筆力を基盤として、さまざまな個性・情動—筆意が実現されたものであり、そこに芸術性を成立させるものである」(岡部蒼風「書論ノート」より)

町教育委員会では、岡部蒼風記念式典・講演会と作品展を開催します。入場は無料ですので、この機会に芸術としての「書」を、鑑賞してみませんか。

## 岡部蒼風記念式典・講演会

「岡部蒼風、その人と作品を語る」

日時 9月21日(日) 午後1時30分～

会場 町立図書館

講師 遠藤一器氏(書家)

申込方法 電話で申し込む ※申込締切は9月10日(金)

申込・問合せ先 生涯学習課 ☎47-5043

## 岡部蒼風作品展

日時 9月21日(日)～29日(月)

会場 町立図書館ほか ※図書館の開館時間  
午前9時～午後6時に限る。

●書家の遠藤一器氏によるギャラリートーク(作品解説)

日時 9月22日(火) 事前申込不要

【午前の部】午前10時30分～ 【午後の部】午後2時～

会場 町立図書館ほか 集合場所 町立図書館玄関前



「山鳴谷應」(2000年作) 蒼風最晩年の作品といわれている  
※「山鳴き、谷応える」